

事務事業評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	砂川樫井線新設事業					②事業番号	5106
③事業類型	5. 普通建設事業			④開始年度	昭和 51 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	7	項	4	目	6	細目 1
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
都市整備部	道路課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 道路利用者	① 計画延長	m
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
都市計画道路砂川樫井線のうち、下記の認可区間について、道路新設工事を行う。 ①JR和泉砂川駅付近から一丘団地の間(計画延長1,498m) ②一丘団地(小学校)から市道樫井大苗代新家線の間(計画延長490m)	① 投資済額	千円
	② 整備済額	m
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
安全性・利便性を向上させる。	① 整備率(事業費ベース)	%
	計算式 投資済/総事業費	
	② 整備率(延長ベース)	%
	計算式 整備済延長/総延長	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
市内の主要拠点を結び、市の骨格となる幹線道路の整備が促進される。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大(節)	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします
	施策中	1 道路の整備
	施策小	1 幹線道路の整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	計画延長	m	1,958	1,958	1,958	1,958	—	—
対象指標②								
活動指標①	投資済額	千円	3,303,942	3,385,714	3,421,434	3,490,037	—	
活動指標②	整備済額	m	1,120	1,120	1,120	1,120	—	
活動指標③								
成果指標①	整備率(事業費ベース)	%	78	80	81	83	—	
成果指標②	整備率(延長ベース)	%	57	57	57	57	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明 H30から用地買収に着手したため、事業費が増加した。 R1は買収地が少なかったため、事業費が減少した。
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.36	0.45	0.55	0.55		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
財源内訳	事業費	千円	2,891	3,648	4,242	4,242		
	人件費(投入人員*単価)	千円	17,509	81,772	35,720	68,603		
	直接事業費	千円	20,400	85,420	39,962	72,845		
	総事業費	千円	8,657	43,891	19,156	34,650		
財源内訳	国庫支出金	千円	3,542	17,956	7,837	14,175		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	4,100	16,100	3,050	12,700		
	その他特定財源	千円	4,101	7,473	9,919	11,320		
財源内訳	一般財源	千円						

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	JR和泉砂川駅付近と一丘団地、市場岡田線、新家方面を結ぶ幹線道路を整備することで、利用者の安全性・利便性を向上させ、交通の円滑化を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	現状では本線が市場長慶寺砂川線にアクセスし、JR阪和線を越えている。今後、一丘団地から先を延伸し、より一層の事業効果の発現を図る。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市内幹線道路の一部であり、整備することにより、移動がスムーズとなり、利用者の利便性が向上する。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	都市計画法に基づいて施行され、また、社会基盤を支える根幹となる事業であるため、交付金(国費)を含む税金を充てて達成できる事業である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	定められた諸基準に適合するよう、計画・設計をしている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	交通渋滞の緩和のため、幹線道路の整備が必要である。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	用地買収が順調に推移している。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	関係機関との協議を進めることにより、成果向上の余地を検討する。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	他部署で類似の目的を持つ事務事業なし。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	設計内容の精査により、コスト削減を目指す。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	都市計画税が充てられている。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	道路利用者の安全性、利便性の向上が期待できるので、供用に向け鋭意取り組む必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
	↓ ＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など		—			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—			